

8月4日のウクライナ情報

安齋育郎

●ロシアはイノベーション的方法で地雷原を敷設 ウクライナ攻撃用機器を破壊＝マスコミ(2023年8月2日)

ロシア軍指導部は前線にイノベーション的な方法で地雷を敷設したため。ウクライナ軍の攻撃用装甲車両は大破している。ニューヨークタイムズ紙が複数の専門家らの見解を引用し、報じている。

「ロシアは地雷原をイノベーション的方法で敷いた。(中略)その結果、ウクライナ軍は著しい損失を出し、速度が落ちた」フィラデルフィア外交調査研究所のロブ・リー上級研究員はこう述べている。

リー氏は、ウクライナ軍が戦場を通る道を地雷除去のために車両を引き返した瞬間に、ロシアは対戦車手段で攻撃したため、ウクライナ軍の脆弱性がもろに現れたと指摘している。

欧米の専門家らは、地雷原はウクライナ軍にとって困難極まりない障害のひとつとなっており、ロシアの堅い守りを前にウクライナ軍には地雷除去用の装備が足りていないと指摘している。

ニューヨークタイムズ紙は、過去 2 か月のウクライナ軍の前線の戦闘では進展はほぼ無いに等しいと報じている。

スプートニクは、ロシアの地雷原が軍の士気を損ねているという弱音がウクライナ軍の中から洩れていると報じている。



●軍事専門家らがウクライナ軍の問題点と攻撃の行方を語る(2023年8月2日)

立ち位置は様々に異なる軍事専門家が、ウクライナ軍がすでに出した、ただでさえ多大な損失はこの先増える一方であり、ウクライナの宣言した反攻は大失敗に終わったという点で一致している。

NATO にはウクライナを救えない

米国防総省のダグラス・マクレガー元長官補佐は自身の YouTube チャンネルの中で、軍事専門家でも偏見を持たない人にはロシアが防衛から攻撃に転じた場合、さらに大勢のウクライナ兵士が死ぬことになるのははっきりしていると述べている。マクレガー氏はウクライナ軍司令部は西側諸国が政治的支援を行うことを当てにしていると語っている。「そんな支援はもう行われたいことははっきりしていると思う。NATO は渡せるもののほぼすべてをすでにウクライナに渡した」マクレガー氏はロシア

の軍需工場はほぼ週 7 日 24 時間体制で稼働しており、ロシア自体、恐ろしい軍事大国と化したと指摘した上で、2022 年 2 月の段階ではロシアはまだそうした状態にはなかったと述べている。

マクレガー氏の見解にロシア人軍事評論家のヴィクトル・リトフキン退役大佐も同意している。リトフキン氏もウクライナ軍は反攻で兵力を大きく損失し、軍事機器の 30%を失ったと見ている。リトフキン氏は、おそらくキエフは NATO からの新たな軍備補強を待って、攻撃での小休憩を行っているのだろうが、攻撃なき勝利は不可能な以上、この間にロシア軍は攻撃に転じるだろうとの見方を表した。

タイムズもウクライナは西側の支援はもう当てにできないと書いている。タイムズ紙は、英国が修理して供与するはずだった 43 台のチャレンジャー 2 が、キエフが戦場で失った軍事機器を部分的には補充できたかもしれないが、英国は単に「もう修理のしようがない」機器を廃棄しただけだと指摘している。

ロシアは戦場でウクライナを凌駕

米国人軍事専門家のフランク＝ステファン・ゲジ氏は英「エコノミスト」紙への寄稿の中で、ウクライナ軍には今の状態では大規模な諸兵科連合で攻撃をかける能力はないとの見方を示している。ウクライナ人の司令部は中隊、大隊のレベルでさえ、戦闘行為をすり合わせて行うこともできない。

ウォールストリートジャーナルは、こうした一方でロシアは戦争方法のあらゆるルールに沿って、自国の防衛を構築したと評した。ウクライナ軍にとって「思いもかけなかった、密な地雷原」が深刻な問題となり、これが故に負傷兵の数が増え続けている。ウォールストリートジャーナルはまた、兵員の損失が止まないことから、キエフは訓練もできていない兵士をさらに多く戦場へ送り出している事実を指摘している。

CNN はウクライナ軍が失敗した原因について、ロシアがこの紛争では明白に空を制圧したからだとし、そのためにウクライナ軍はロシアの航空隊の頻繁な空爆を蒙っていると報じている。また、ウクライナ軍の軍機はロシアが準備した対戦車用の溝や障壁に阻まれ、動きがとれない。

西側のマスコミはほぼ全紙がこぞって、ロシア軍の準備が万端であり、戦士らの準備の水準はますます向上していると認めている。ロシア内ではこの事実を疑う者はいない。

スプートニクは、英国がクリミア侵攻にむけて、現在、ウクライナ軍を訓練中だと報じている。



●「期待通りにいかなかった」 反攻失敗でウクライナ軍は欧米の戦術を放棄＝米メディア(2023年8月3日)

米国やその他の西側の同盟国で訓練を受けたウクライナ軍兵士は、反転攻勢の失敗を受けて欧米の戦術を放棄し、その代わりにロシア軍を疲弊させることに重点を置くことにした。ニューヨーク・タイムズ紙が米当局者やアナリストを引用して報じた。

同紙によると、欧米から近代的な兵器を供与され、欧米の専門家たちによる訓練を受けたものの、結果的にウクライナ軍は地雷原にはまり込み、ロシア軍の大砲や戦闘ヘリコプターによる絶え間ない攻撃にさらされた。そのためウクライナは現在、戦術を変えることにしたという。

ニューヨーク・タイムズは、ウクライナが戦術の変更を決めたことについて、これは新しい兵器を受け取り、新たに訓練を受けたものの、反転攻勢で成果を出すという北大西洋条約機構(NATO)の期待通りにいかなかったことを明確に示していると指摘している。

そのため現在、ウクライナの指揮官たちは、ロシア軍を疲弊させることに重点を置くことにしたという。西側諸国で訓練された第二波の部隊は、主に小規模な攻撃のみを開始している。一方、米国では、ウクライナ軍が古い戦術に戻ると、兵器がすぐに枯渇してしまい、ロシアの手のひらで踊らされるだけになるのではないかと懸念されているという。

戦闘地域を訪れた米当局者やアナリストらも、欧米による訓練を受けたウクライナ兵が反攻初期にいくつかのミスを犯し、それによって後退することになったと指摘している。

ウクライナは「莫大」な損失を被る

ニューヨーク・タイムズはこれに先立ち、医師らの話として、反攻で負傷したウクライナ兵の数は莫大だと報じた。前線の近くに設置された診療所には、常に「戦闘で負傷した兵士が押し寄せている」という。

医師らによると、搬送される兵士の大半は地雷の爆発で負傷した者たちで、火器負傷者は減っている。また、ウクライナ軍の兵士たちは重傷に加えて、反攻の失敗により、精神的に「打ちひしがれた」状態に陥っているという。

スプートニクは先に、ウクライナ軍の問題点と攻撃の行方に関する専門家の見解を報じた。



●「ワシントンもロンドンも失望している」 ウクライナはその行動で同盟国の忍耐力を試している(2023年8月3日)

ウクライナは間違った軍事戦略を選択し、米国の助言を無視したほか、米当局が北大西洋条約機構(NATO)を通じた協議にウクライナを参加させることに消極的だと不満を表した。ウクライナは現在、絶えず武器を要求することで NATO に加盟する自国の同盟国の忍耐力を試している。米 CNBC が消息筋を引用して報じた。

CNBC によると、米政府は先月 7 月にリトアニアで開催された NATO 首脳会議でのゼレンスキー大統領の行動に腹を立てた。ゼレンスキー氏は、ウクライナの NATO への招待や加盟についての期限が設定されていないとして NATO を批判した。また、米国はウクライナに対して特定の行動を起こさないよう強く助言したが、ウクライナ政府はこれらの警告を無視、またはその警告に一切注意を払わなかったという。

リトアニアでの NATO 首脳会議でその加盟国はウクライナへの支持を改めて表明したが、その地域の当局は「要求と圧力との境界線を見極める」必要があることも示した。CNBC によると、ウクライナの同盟国の一部はまさに圧力を感じているという。

また CNBC は、ゼレンスキー氏の軍事戦略に外国の政治エリートは苛立っていると強調している。彼らは、ウクライナ政府がアルテムフスク(バフムート)をめぐる戦いを行ったことで、現在の反転攻勢に役立ったであろう人員と兵器が失われたことに不満を抱いているという。

NATO の報道官だったジェイミー・シェイ氏は CNBC に対し、ウクライナがその西側同盟国による支援の量に満足することは決してないだろうとの考えを示した。同氏は、「ウクライナ側は時間の経過とともにさらにもっともっとたくさんの量をいつまでも必要とするだろう」と述べ、一方で「西側諸国は常にできることは全て行っていると考えるだろう」と指摘した。



●軍事専門家らがウクライナ軍の問題点と攻撃の行方を語る(2023年8月2日)

立ち位置は様々に異なる軍事専門家が、ウクライナ軍がすでに出した、ただでさえ多大な損失はこの先増える一方であり、ウクライナの宣言した反攻は大失敗に終わったという点で一致している。

NATOにはウクライナを救えない

米国防総省のダグラス・マクレガー元長官補佐は自身の YouTube チャンネルの中で、軍事専門家でも偏見を持たない人にはロシアが防衛から攻撃に転じた場合、さらに大勢のウクライナ兵士が死ぬことになるのははっきりしていると述べている。マクレガー氏はウクライナ軍司令部は西側諸国が政治的支援を行うことを当てにしていると語っている。「そんな支援はもう行われたいことははっきりしていると思う。NATO は渡せるもののほぼすべてをすでにウクライナに渡した」マクレガー氏はロシアの軍需工場はほぼ週 7 日 24 時間体制で稼働しており、ロシア自体、恐ろしい軍事大国と化したと指摘した上で、2022 年 2 月の段階ではロシアはまだそうした状態にはなかったと述べている。

マクレガー氏の見解にロシア人軍事評論家のヴィクトル・リトフキン退役大佐も同意している。リトフキン氏もウクライナ軍は反攻で兵力を大きく損失し、軍事機器の 30%を失ったと見ている。リトフキン氏は、おそらくキエフは NATO からの新たな軍備補強を待って、攻撃での小休憩を行っているのだろうが、攻撃なき勝利は不可能な以上、この間にロシア軍は攻撃に転じるだろうとの見方を表した。

タイムズもウクライナは西側の支援はもう当てにできないと書いている。タイムズ紙は、英国が修理して供与するはずだった 43 台のチャレンジャー2 が、キエフが戦場で失った軍事機器を部分的には補充できたかもしれないが、英国は単に「もう修理のしようがない」機器を廃棄しただけだと指摘している。

ロシアは戦場でウクライナを凌駕

米国人軍事専門家のフランク＝ステファン・ゲジ氏は英「エコノミスト」紙への寄稿の中で、ウクライナ軍には今の状態では大規模な諸兵科連合で攻撃をかける能力はないとの見方を示している。ウクライナ人の司令部は中隊、大隊のレベルでさえ、戦闘行為をすり合わせて行うこともできない。

ウォールストリートジャーナルは、こうした一方でロシアは戦争方法のあらゆるルールに沿って、自国の防衛を構築したと評した。ウクライナ軍にとって「思いもかけなかった、密な地雷原」が深刻な問題となり、これが故に負傷兵の数が増え続けている。ウォールストリートジャーナルはまた、兵員の損失が止まないことから、キエフは訓練もできていない兵士をさらに多く戦場へ送り出している事実を指摘している。

CNNはウクライナ軍が失敗した原因について、ロシアがこの紛争では明白に空を制圧したからだとし、そのためにウクライナ軍はロシアの航空隊の頻繁な空爆を蒙っていると報じている。また、ウクライナ軍の軍機はロシアが準備した対戦車用の溝や障壁に阻まれ、動きがとれない。

西側のマスコミはほぼ全紙がこぞって、ロシア軍の準備が万端であり、戦士らの準備の水準はますます向上していると認めている。ロシア内ではこの事実を疑う者はいない。

スポーツニクは、英国がクリミア侵攻にむけて、現在、ウクライナ軍を訓練中だと報じている。



●ある意味で命を守った？(2023年8月3日)

ウクライナのザカルパート地方の軍事務所所長は、集めた兵士を戦争に行かせず、自分の別荘(ダーチャ)の建設をやらせてた。

<https://twitter.com/i/status/1686959705971957760>



●フランスの今(2023年8月1日)

アルゼンチンのニュースに報じられているフランスの実態。パリの荒廃、最貧困層の存在が、パリのイメージとかけ離れているので、来年のオリンピックまでに体裁良く出来ないのでは？と言われている。



※あるツイッターのコメント:先日、自民党の女性局がフランスパリに視察研修に38名で行かれました。こういう場所を果たして視察したのでしょうか。またこういう現状を見て、パリの政府と話をしたのでしょうか。疑問です。

●【切り抜き 闘論！ 倒論！ 討論！】何処に行くウクライナと米露中の未来 [桜 R5/8/2]

パネリスト:

マックス・フォン・シュラー小林(元米海兵隊・歴史研究家)

用田和仁(元陸上自衛隊西部方面総監 陸将)

矢野義昭(元陸上自衛隊小平学校副校長 陸将補)

山口敬之(ジャーナリスト)

ロバート・D・エルドリッチ(エルドリッチ研究所代表)※スカイプ出演

司会:水島総

<https://youtu.be/wpeFmHvdAIg>



●ゼレンスキーとパナマ文書と隠し資産(2023年8月3日)

本当にウクライナは日本人の税金を使ってまで支援しなくてはならない国なのか？

<https://twitter.com/i/status/1686834202325499904>



●ウクライナ 侵攻で出生率約3割低下 5万人手足損失か(テレ朝、2023年8月3日)

ロシアによる侵攻後、ウクライナの出生率が大幅に低下していることが分かりました。また、戦闘などで手足を失った人は5万人に及ぶとみられています。

ウクライナの統計機関によりますと、今年上半期にウクライナで生まれた子どもの数は9万6755人でした。

侵攻前の2021年の同じ時期は13万5079人で、28%減少しています。

1991年にロシアから独立して以来、最大の減少幅で、統計機関は「ウクライナの新生児の数は最大の危機を迎えている」と指摘しています。

一方、ウォール・ストリート・ジャーナルによりますと、戦闘などにより手足を失ったウクライナ人の数が2万人から5万人に上がることが分かりました。

4年続いた第1次世界大戦ではおよそ11万人が手足の切断手術を受けましたが、それに迫る数となっています。

切断に至るけがの理由は、侵攻当初は砲撃やロケット攻撃によるものでしたが、今は地雷が主な原因となっています。

ウォール・ストリート・ジャーナルは切断手術後、登録されるまで時間がかかるため、実際の人数はさらに多い可能性があるとして指摘しています。



●ウクライナ人男性の弁(2023年8月2日)

「モスクワシティが攻撃されて、喜んでる私達の国民が結構いるけど、意味は？モスクワシティにかす

り傷がついたかもしれないけど、今晚ウクライナに飛んでくるお返しはかすり傷じゃ済まない」

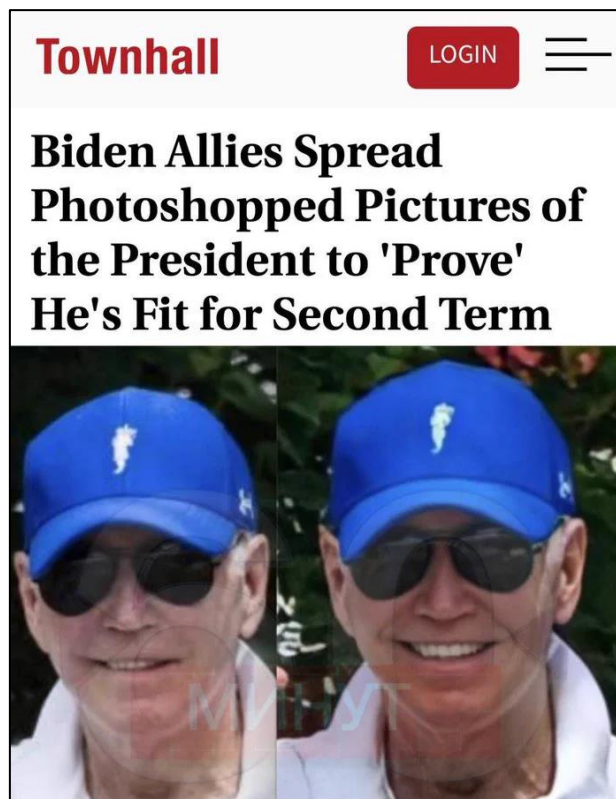
投稿者コメント:ウクライナ人は、自分たちの政府の馬鹿げた行動と攻撃との繋がりに気づいたようです。

<https://twitter.com/i/status/1686668931963269121>



●バイデンの加工画像(2023年8月3日)

バイデンが 2 期目の大統領にふさわしいことを証明するため、支持者が photoshop で加工した写真を拡散した。バイデンが年を取りすぎていると考える 68%の有権者を動かすためのキャンペーンの一環のようだ。

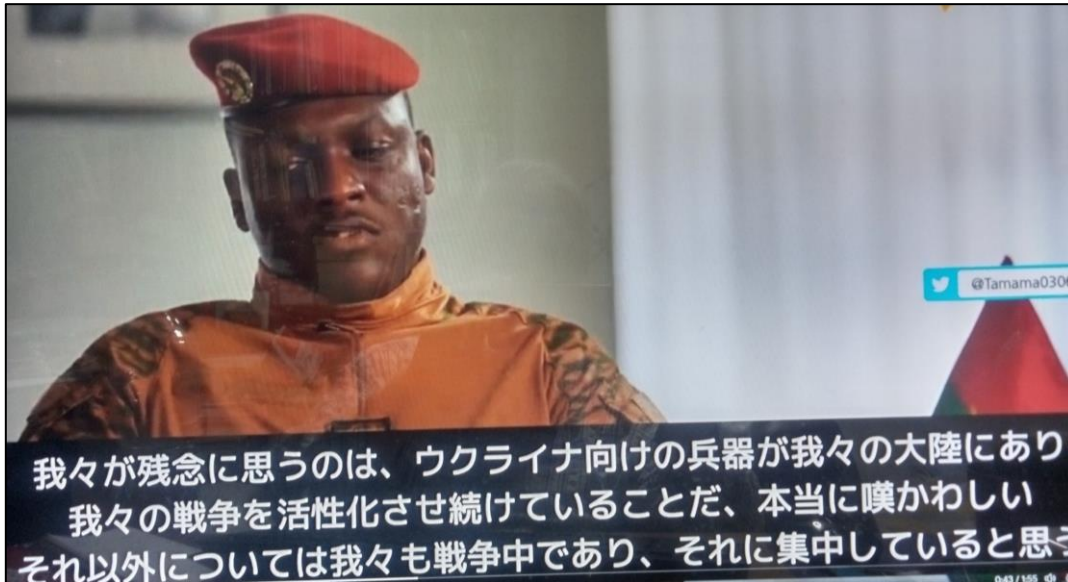


●ブルキナファソ、トラオレ大統領、ロシア・アフリカ首脳会議後のインタビュー(投稿日、2023年8月3日)

西側諸国が提供した兵器をウクライナ(ゼレンスキー)が管理できておらずアフリカ大陸に流れ、我々のテロリストとの戦争を悪化させている、本当に嘆かわしい。

誰もが停戦を望んでいる。みんな平和に暮らしたいのだ。

<https://twitter.com/i/status/1686811138154262528>



●ドイツテレビのインタビューで、ドイツ新聞 Die Welt の主任特派員【2023年3月1日】

Steffen Schwarzkopf 曰く、「信じられない事実！

バフムートの多くのウクライナ人が街を離れたくなく、ロシア人が彼らを解放するのを待っている。ロシア人のような生活をしたい。」

<https://twitter.com/i/status/1634313012671811585>

